2013年3月期
決算補足説明資料
（中期経営計画ローリング含む）

2013年5月8日

アニコム ホールディングス株式会社

（証券コード：8715）

目次

1. 2013年3月期決算概要 及び
2014年3月期業績予想

2. 2014年3月期　重点施策

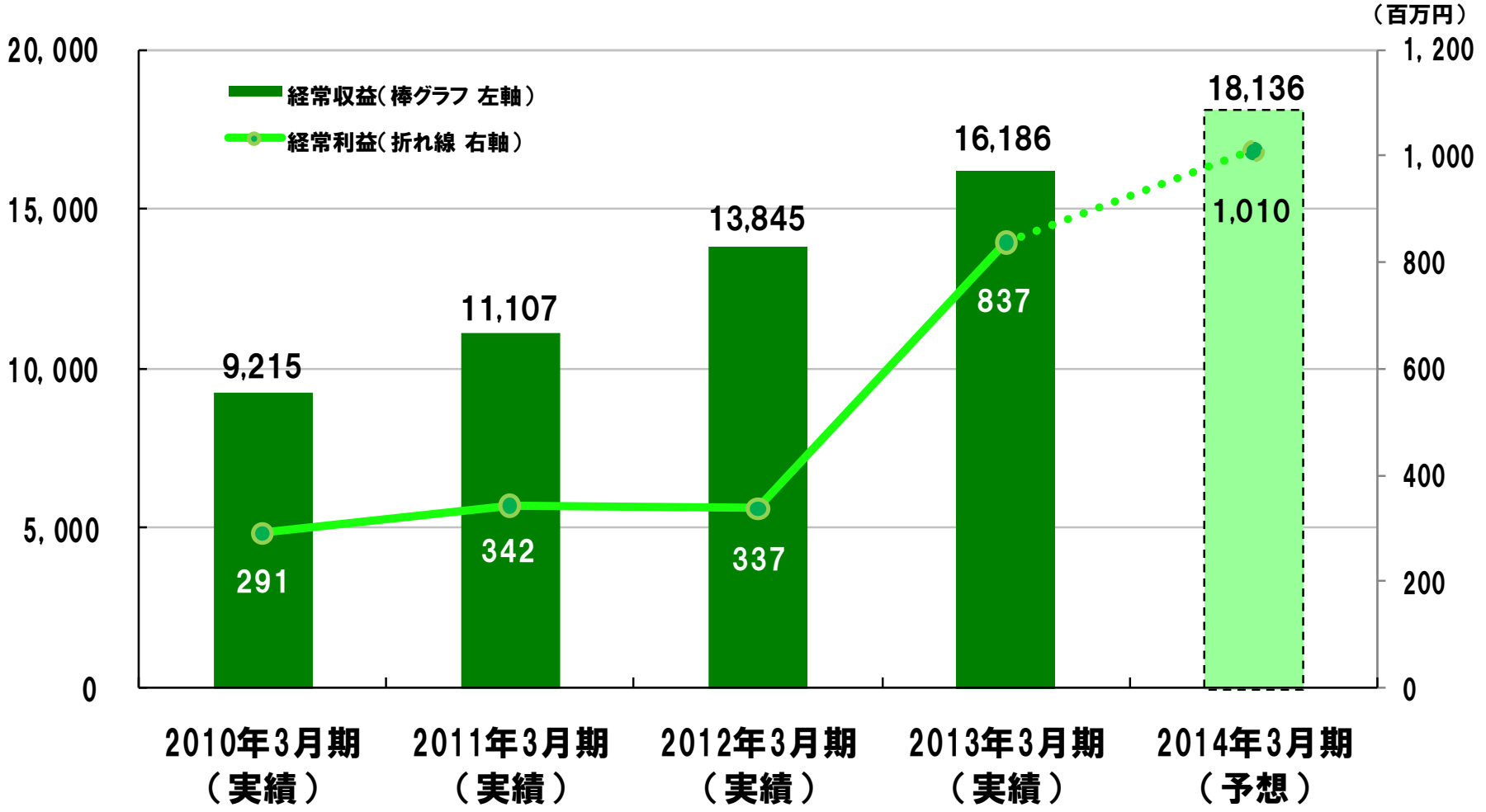
3. 中期経営計画ローリング2016

1-(1). 2013年3月期通期　連結業績概況

（百万円）

	2012年3月期（実績）	2013年3月期（10月10日予想）	2013年3月期（実績）	対予想増減率	対前年増減率	2014年3月期（予想）	対前年増減率
経常収益	13,845	15,970	16,186	1.4%	16.9%	18,136	12.1%
保険引受収益	13,592	-	15,781	-	16.1%	-	-
（正味収入保険料）	(13,592)	(-)	(15,781)	(-)	(16.1%)	(-)	(-)
資産運用収益	108	-	260	-	139.8%	-	-
その他経常収益	144	-	143	-	△0.3%	-	-
経常費用	13,508	-	15,348	-	13.6%	-	-
保険引受費用	9,797	-	11,450	-	16.9%	-	-
（正味支払保険金）	(7,304)	(-)	(9,465)	(-)	(29.6%)	(-)	(-)
（損害調査費）	(480)	(-)	(581)	(-)	(21.1%)	(-)	(-)
（諸手数料及び集金費）	(780)	(-)	(853)	(-)	(9.4%)	(-)	(-)
（支払備金繰入額）	(348)	(-)	(140)	(-)	(△59.7%)	(-)	(-)
（責任準備金繰入額）	(883)	(-)	(409)	(-)	(△53.7%)	(-)	(-)
（うち未経過保険料）	(942)	(-)	(686)	(-)	(△27.1%)	(-)	(-)
（うち異常危険準備金）	(△58)	(-)	(△277)	(-)	(375.4%)	(-)	(-)
資産運用費用	31	-	0	-	△98.5%	-	-
営業費及び一般管理費	3,392	-	3,632	-	7.1%	-	-
その他経常費用	287	-	264	-	△8.0%	-	-
経常利益	337	829	837	1.0%	148.3%	1,010	20.7%
当期純利益	465	630	640	1.6%	37.7%	637	△0.5%

1－(2)．経常収益・経常利益の推移（連結）

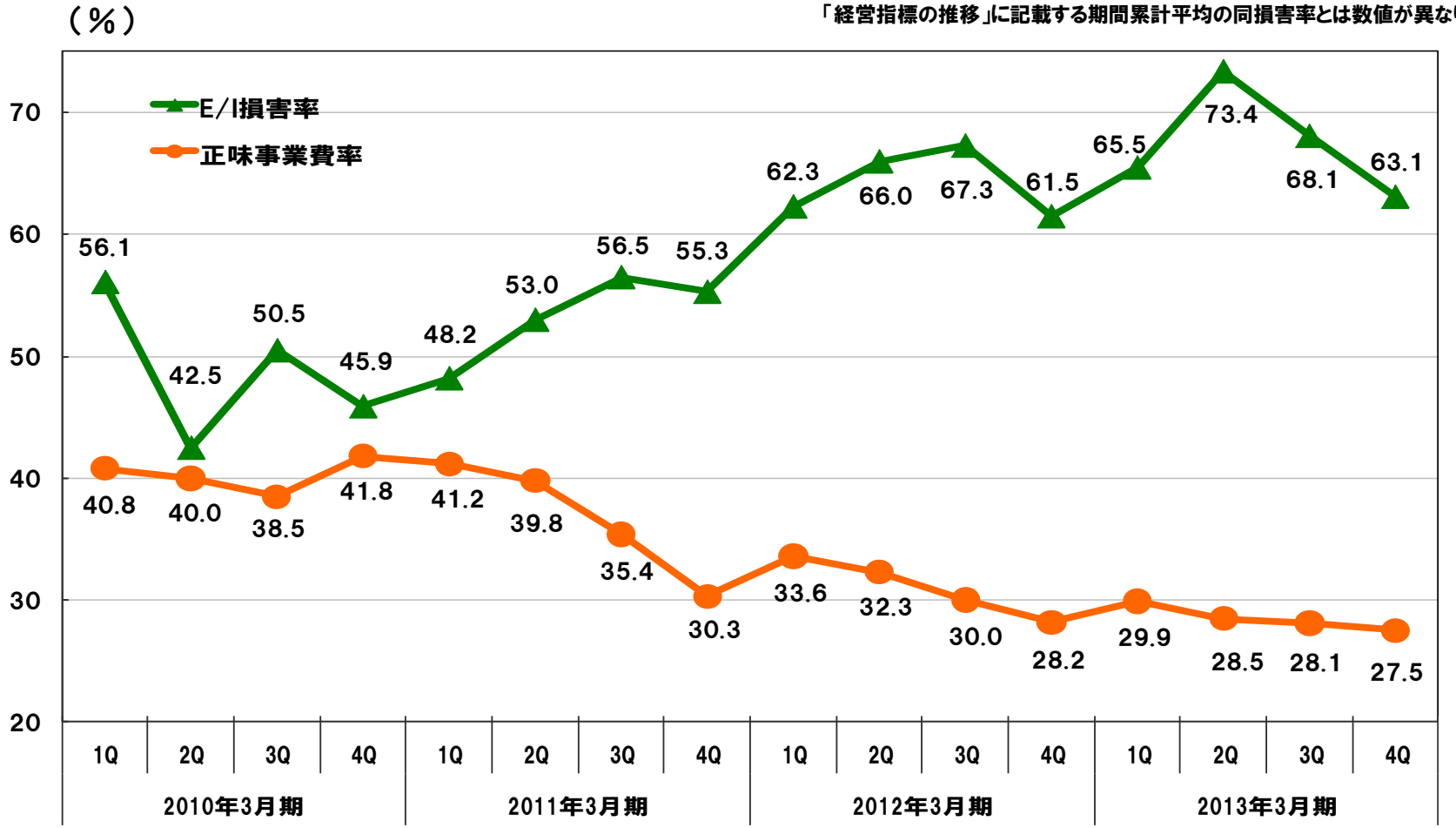


・2013年3月期は経常収益が16,186百万円（前年同期比16.9％増）、経常利益が837百万円（同148.3％増）と順調な成長を継続しております。

・2014年3月期は経常収益が18,136百万円（前年同期比12.1％増）、経常利益が1,010百万円（同20.7％増）を予想しております。

1－(3). 損害率・正味事業費率の推移（四半期・損保単体）

注）下表のE/I損害率は、四半期毎の平均値を記載しておりますので、
「経営指標の推移」に記載する期間累計平均の同損害率とは数値が異なります。



・経常収益に対する正味事業費率は、経費管理の徹底、効率化に向けた取組み等により、低下傾向で推移しております。
・E/I損害率は、商品改定（補償拡大）の影響により上昇傾向でありましたが、上昇インパクトが低減したこと、2012年8月に補償割合90%商品の引受を停止したことに加え、保険金請求の季節性（冬場は減少）により、4Qは大きく低下しております。

1－(4). 経営指標の推移(損保単体)

	2010年3月期	2011年3月期	2012年3月期	2013年3月期	2014年3月期（予想）
①正味損害率(W/P) （正味支払保険金＋損害調査費）/正味収入保険料X100	45.5%	48.1%	57.3%	63.7%	61.4%
②E/I損害率 （正味支払保険金＋支払備金積増額＋損害調査費）/既経過保険料X100	48.6%	53.4%	64.3%	67.5%	64.4%
③正味事業費率 （諸手数料及び集金費＋保険引受に係る営業費及び一般管理費）/正味収入保険料X100	40.3%	36.3%	30.9%	28.5%	28.8%
④コンバインド・レシオ(合算率) (正味損害率+正味事業費率＝①＋③)	85.8%	84.4%	88.2%	92.2%	90.2%
⑤E/I損害率＋正味事業費率 （②+③）	88.9%	89.7%	95.2%	96.0%	93.2%
ソルベンシー・マージン比率(新基準)	－	304.1%	307.2%	281.3%	282.1%
ソルベンシー・マージン比率(旧基準)	468.0%	482.8%	－	－	－

1－(5)．2013年3月期　通期の振り返り

経常収益（保険料収入）	新規契約	ペットショップ代理店	○第４四半期から大型代理店で取扱いを開始、新規契約の獲得は堅調に推移 ○募集コンプライアンスを一層強化
		金融機関・カーディーラー職域代理店等	○地銀・信金を中心に、引き続き募集力を強化 ○規模の大きな職域代理店との提携を推進 ○その他、生協、カーディーラー等代理店網の拡充を図る
	継続契約		○商品改定の好影響や契約者満足度向上施策の強化により、継続率は上昇傾向で推移 （前年度平均から0.5 ptの上昇）
経常費用	保険引受費用 （支払保険金、支払備金・責任準備金繰入額等）		○通期の損害率は上昇したが、2012年8月に補償割合90%商品の引受を停止し、以降の損害率上昇を抑制 ○アンダーライティングの強化、対応医療機関との関係強化等による損害率の更なる適正化 ○前期末異常危険準備金残高を全額取崩し
	営業費及び一般管理費		○経費管理の徹底、効果検証の強化等により抑制を図る ○IT/WEB化の推進等業務改善による経費効率化を継続
経常利益			○経常利益837百万円を確保

1－(6). 経営パラメーターの推移（損保単体）

	2010年3月期	2011年3月期	2012年3月期	2013年3月期	対前年末増減率	2014年3月期（予想）
保有契約数	290,767件	340,628件	396,234件	446,414件	50,180件（12.7%）	505,602件
ペットショップ代理店店舗数	1,097店舗	1,224店舗	1,224店舗	1,390店舗	166店舗（13.6%）	1,470店舗
一般代理店店舗数	1,934店舗	2,719店舗	2,875店舗	3,362店舗	487店舗（16.9%）	3,850店舗
平均継続率	84.1%	86.6%	87.6%	88.1%	0.5pt	88.5%
対応動物病院数	4,621病院	4,853病院	5,115病院	5,349病院	234病院（4.6%）	5,591病院

・保有契約数は着実に積み上がり、446,414件となりました（前年同期比12.7％増）。
・代理店店舗数（ペットショップ代理店・一般代理店）については、新規開拓に努める一方、成績及び効率性の観点から見直しを進めましたが、大型の代理店と取引を開始したこと等から、ペットショップ代理店は1,390店舗（同13.6％増）、一般代理店は3,362店舗（同16.9％増）となりました。
・平均継続率は、商品改定（補償拡大）効果による上昇傾向が継続しており、88.1％となりました（同0.5pt増）。

1－(7). 財務状態：貸借対照表（連結）

（百万円）

	2012年3月期	2013年3月期	対前期増減率
資産合計	15,355	16,872	9.9%
現金及び預貯金	5,098	4,986	△ 2.2%
有価証券	7,444	9,272	24.6%
有形固定資産	93	86	△ 7.5%
無形固定資産	387	373	△ 3.8%
その他資産	1,981	1,940	△ 2.2%
うち保険業法第113条繰延資産	808	646	△ 20.0%
繰延税金資産	353	219	△ 37.8%
貸倒引当金	△ 5	△ 7	40.0%
負債合計	8,283	9,067	9.5%
保険契約準備金	7,152	7,702	7.7%
うち支払備金	1,001	1,142	14.0%
うち責任準備金	6,151	6,560	6.7%
その他負債	1,073	1,294	20.6%
賞与引当金	55	69	24.0%
価格変動準備金	0	2	202.9%
純資産合計	7,071	7,805	10.4%
株主資本	7,067	7,795	10.3%
うち資本金	4,194	4,238	1.0%
うち資本準備金	4,084	4,128	1.1%
うち利益剰余金	△ 1,211	△ 571	△ 52.8%
評価・換算差額等	3	9	149.5%
負債・純資産合計	15,355	16,872	9.9%

1－(8). 財務状況：キャッシュ・フロー計算書（連結）

（百万円）

	2012年3月期	2013年3月期
営業活動によるキャッシュ・フロー	1,879	1,507
投資活動によるキャッシュ・フロー	△ 1,044	△ 1,852
財務活動によるキャッシュ・フロー	28	85
現金及び現金同等物の増減額	864	△ 260
現金及び現金同等物の期首残高	679	1,543
現金及び現金同等物の期末残高	1,543	1,283

1. 2013年3月期決算概要 及び
2014年3月期業績予想

2. 2014年3月期　重点施策

3. 中期経営計画ローリング2016

2－(1). 外部・内部環境の認識

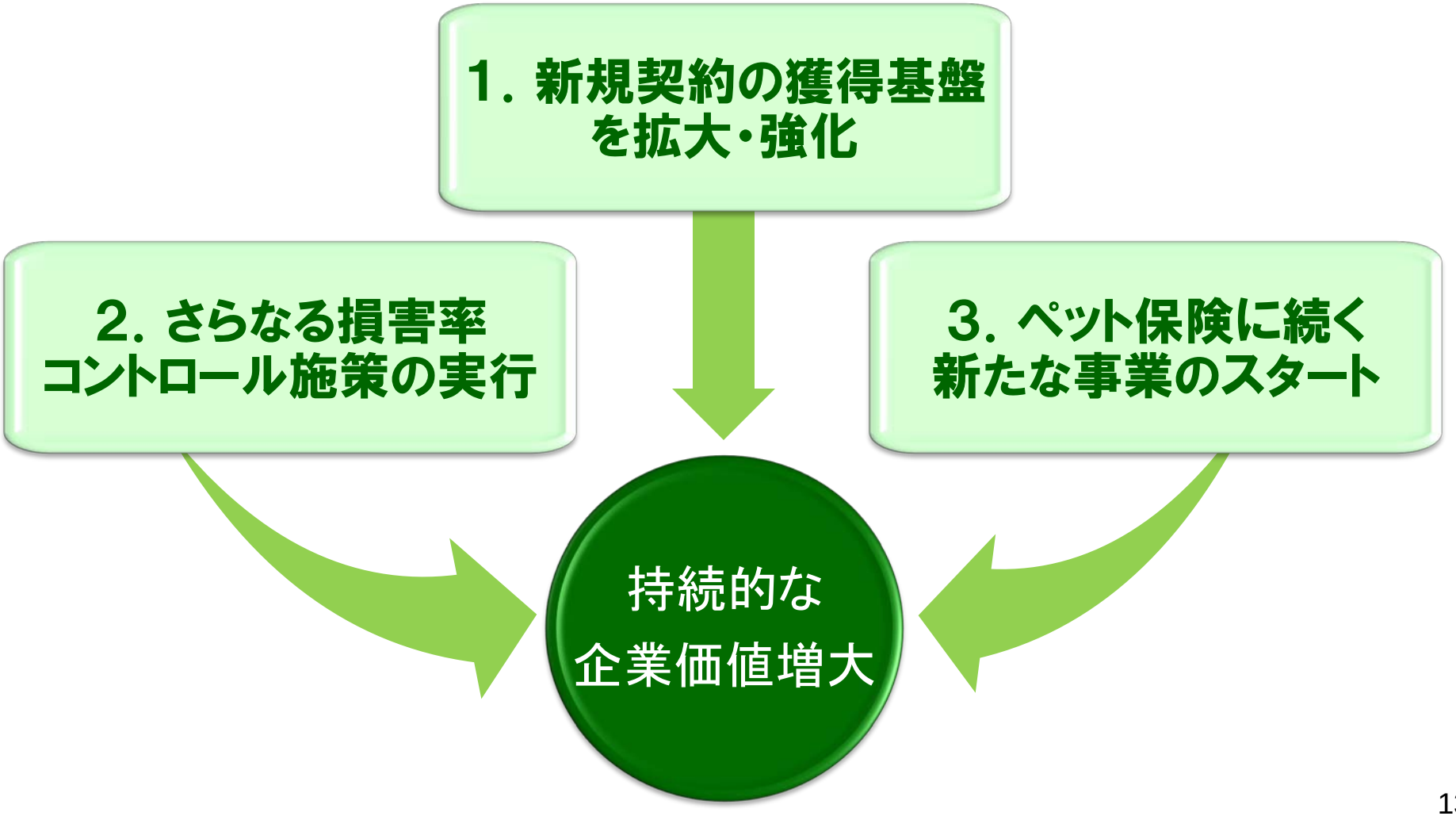
□ 当社グループが保険業としてペット保険事業を開始してから丸5年が経過し、これまで堅調に市場を拡大しております。今後も市場成長を阻害するような大きな環境の変化は想定しておりませんが、現時点において、グループを取り巻く外部環境及び、内部環境を以下のとおり認識しております。

外部環境	・ペット関連市場は、今後も「室内飼育化」「小型犬化」「高齢化」「肥満化」に対応する商品、サービスが市場拡大を牽引し、微増するものと想定する
	・生体の販売頭数は横ばい、もしくはやや減少傾向で推移すると想定するが、ミクロ的にはペットショップの販売力や立地に依存する。有力ペットショップはさらに拡大傾向にある
	・競合環境として、当社グループ以外の保険会社は2社。少額短期保険会社は7社となり1社の新規参入があったものの、競争環境の大きな変化は想定しない
内部環境	・2010年10月から実施した補償内容の拡大により上昇傾向にあった損害率は、一部商品の引受を停止するなどの施策等から、確実に下落傾向に転じてはいるものの、さらなるコントロール施策を要すると認識
	・ペットショップ代理店、対応動物病院を担当する営業部隊を統合し、効率的な新規開拓、募集管理体制を整えつつある。余力は新チャネルの開拓に注力し、さらなる営業基盤の拡充及び募集品質の向上が必須と認識
	・グループ内に40名超の獣医師を雇用。蓄積するビッグデータや対応動物病院網、契約者とのネットワークを基盤にした新規事業展開の好機であると認識

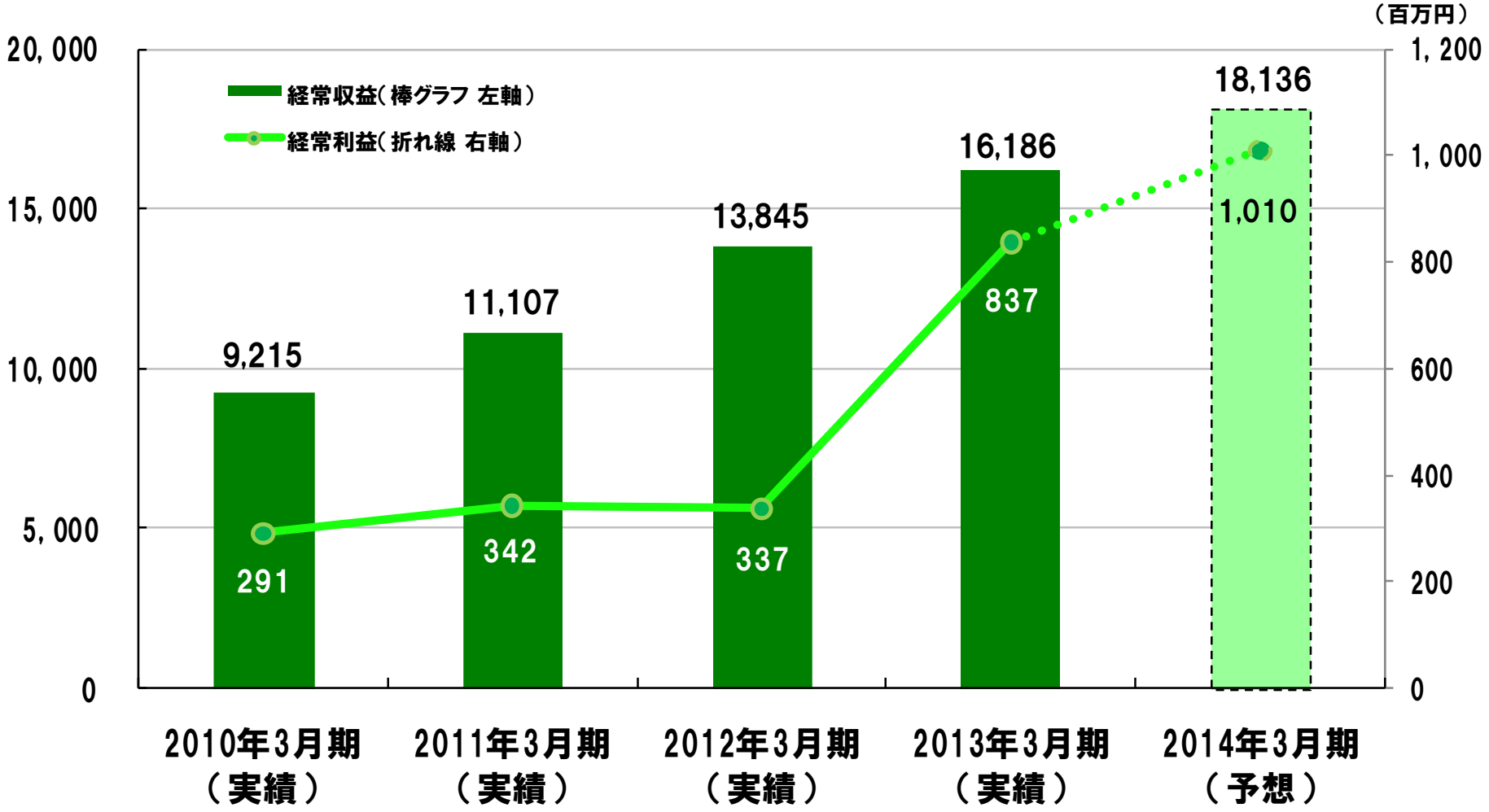
○能動的な内部環境の変化により、積極的な施策実行が可能な体制を整えつつある。自ら外部環境の変化をもたらす良策を実施し、持続的な成長基盤をこの機に構築する

2-(2). 2014年3月期　重点施策

□ 今年度に注力して取組むこと(重点施策)を、以下3つとしております。特に新規契約の獲得基盤に関しては、中核のペットショップ代理店、拡大中の一般代理店(銀行・信金、職域・団体代理店等)に加えて、新規チャネルの立上げに向けた取組みを開始する方針であります。



2-(3). 経常収益・経常利益の推移(連結)



・2014年3月期は経常収益が18,136百万円(前年同期比12.1%増)、経常利益が1,010百万円(同20.7%増)を予想しております。

【ご参考】異常危険準備金の計上・取崩しについて

□ 損害率の上昇にともない、異常危険準備金の戻入（取崩し）が発生し、同繰入金額を上回ったことから、2012年3月期及び2013年3月期は利益に対してプラスのインパクトがありましたが、2014年3月期からは繰入金額が上回る見込みであることから、利益に対してはマイナスのインパクトに転じることとなります。

（単位：百万円）

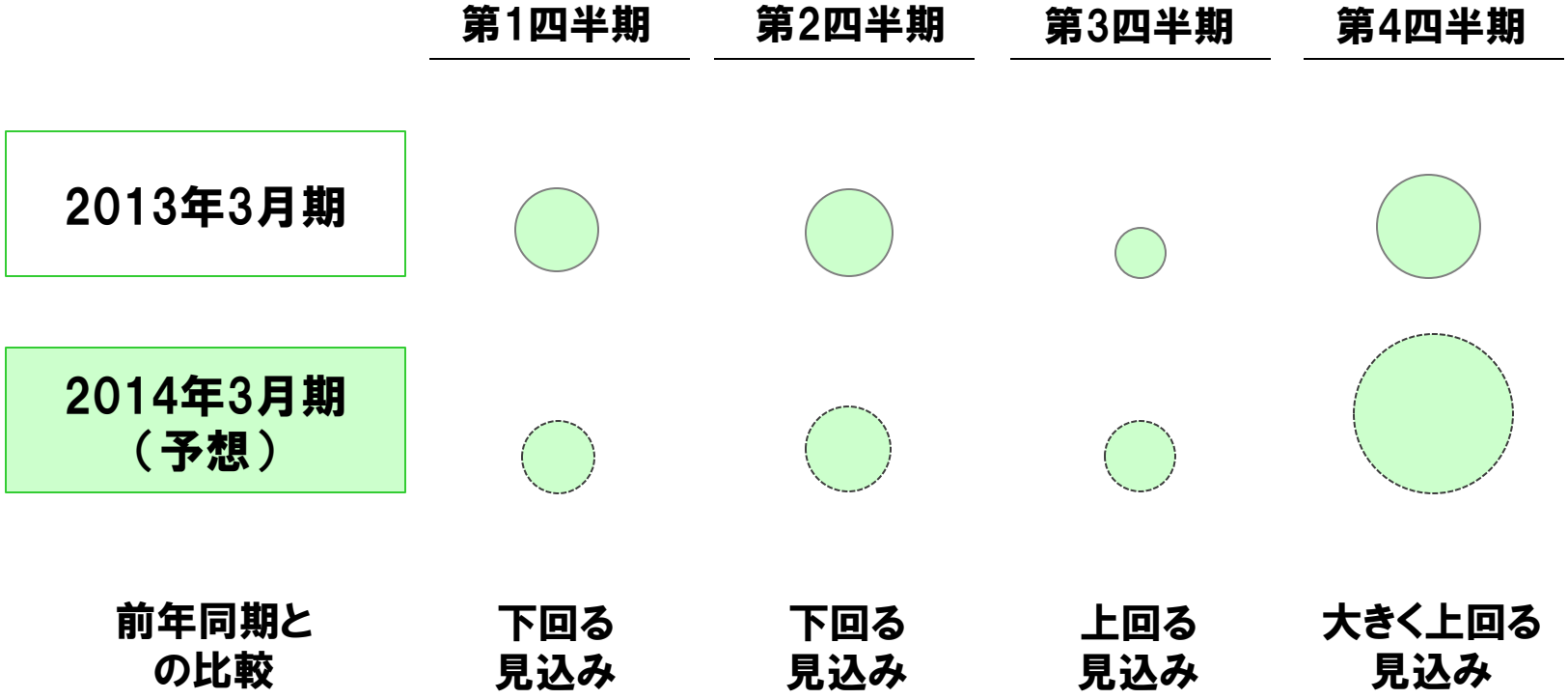
	繰入		戻入（取崩し）	利益に対するインパクト
2012年3月期	435	＜	494	59のプラス
2013年3月期	505	＜	783	277のプラス
2014年3月期（予想）	570	＞	505	64のマイナス

補足）2014年3月期以降は、戻入金額を繰入金額が常に上回るため、利益に対してはマイナスのインパクトが継続する見込みです。

【ご参考】 当期の四半期利益について

□ 当社グループの四半期決算を見ますと、アニコム損保における保険金請求に季節性があることから、上期は利益が小さく、下期に大きく出る傾向があります。この季節性に加え、異常危険準備金の戻入が上期に偏ること、さらに損害率コントロールの影響などが加わると、毎期の四半期利益の推移に統一感が見られなくなります。
ご参考までに、今期の四半期経常利益は以下を予想しております。

○：○の大きさは、利益の規模を示しております



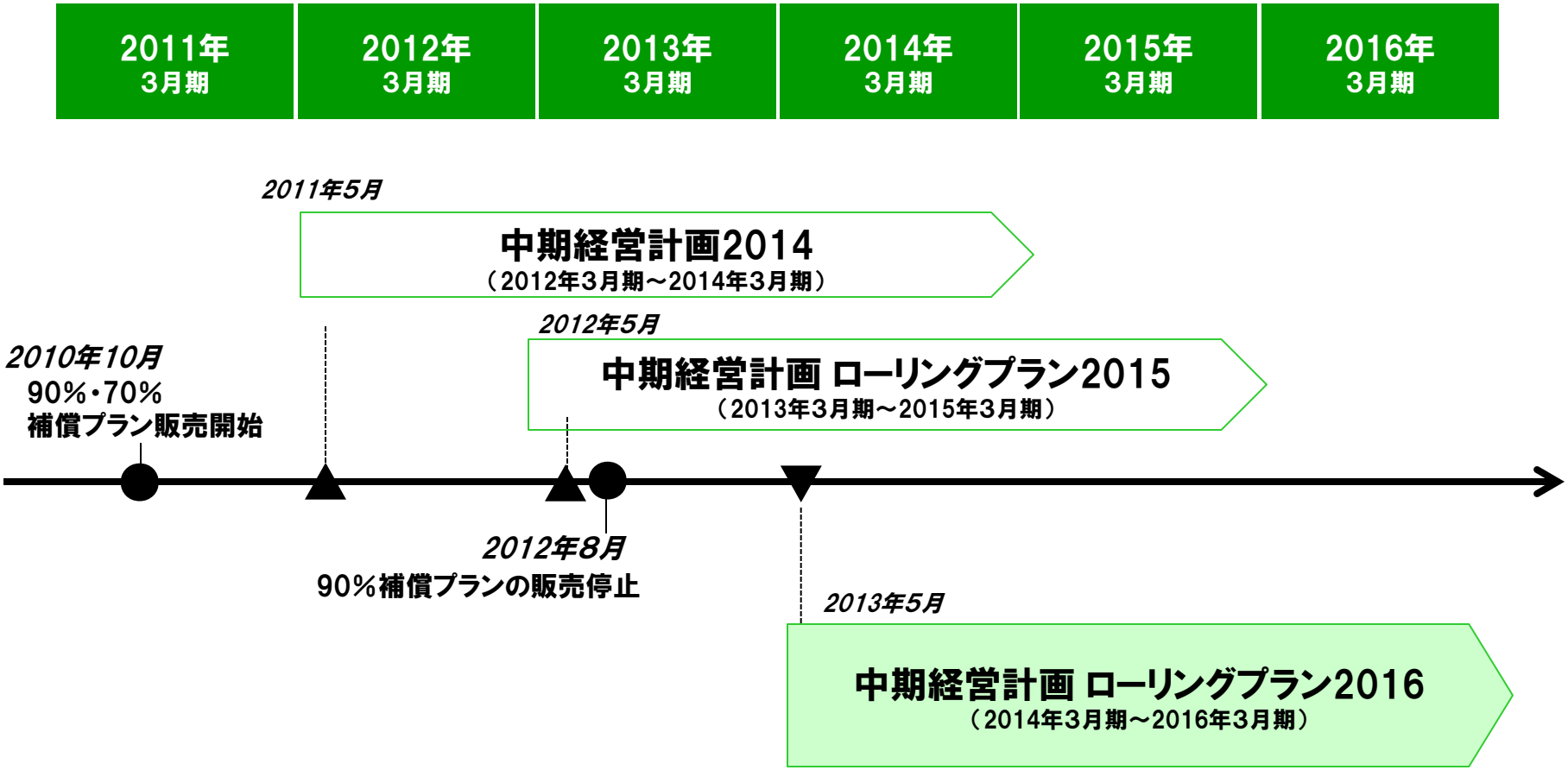
1. 2013年3月期決算概要 及び
2014年3月期業績予想

2. 2014年3月期　重点施策

3. 中期経営計画ローリング2016

3－(1). 中期経営計画ローリングプラン策定について

□ 中期経営計画は、3カ年の環境変化等を想定して策定するものですが、環境の変化に機敏に対応すべく、毎年のローリング（中期経営計画の再策定）を実施します。なお、基本は毎年実施しますが、大きな環境変化が認識される場合には、期中でのローリングを実施することとしております。
□ 今年度は、2014年3月期～2016年3月期に係る「中期経営計画ローリングプラン2016」を策定いたしました。

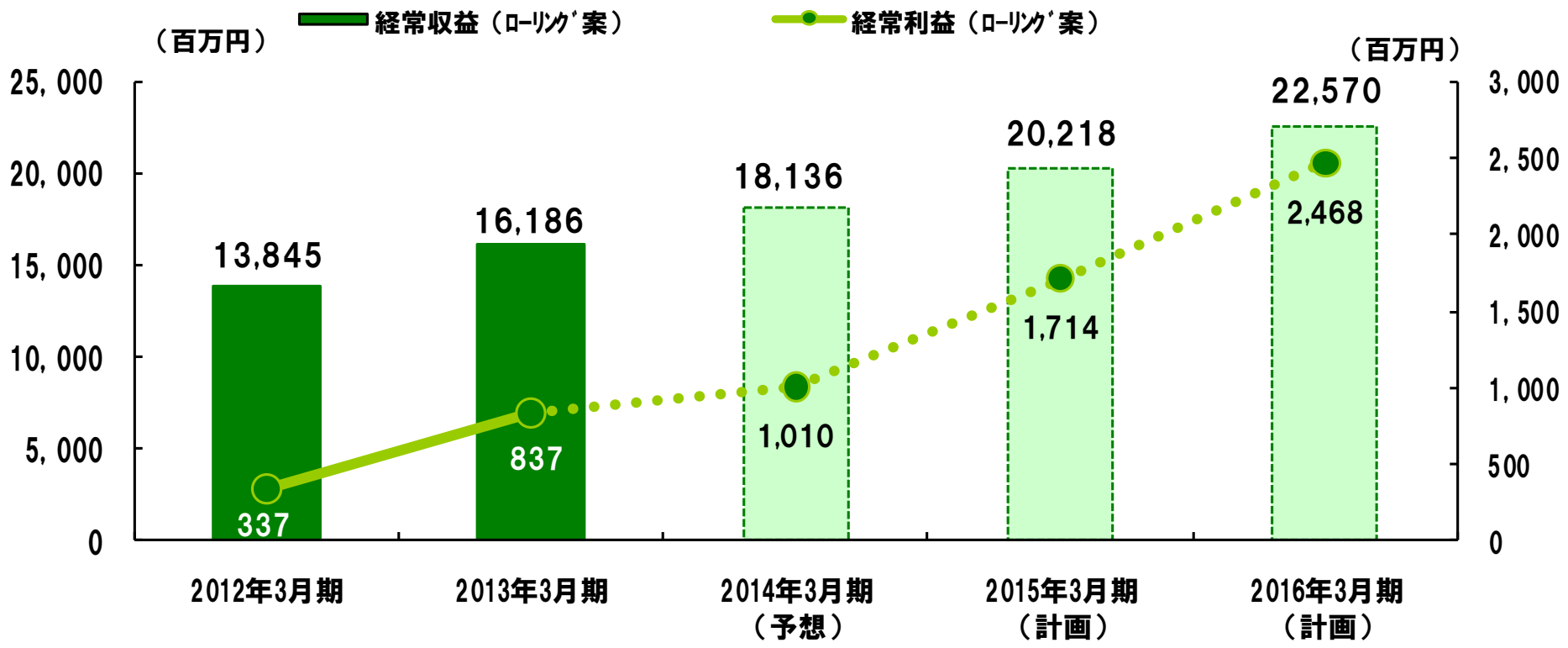


3－(2). グループ中期重点施策

□ 中期経営VISIONを「保険の“あるべき姿”に向けて基本業務を磨き込み、適正・適切かつ効率的な組織体から、確かな価値を創出する」と掲げ、中核事業であるペット保険の持続的成長を堅持しながらも、当社グループのネットワークが保有・蓄積する共有価値の見える化を通じて付加価値を提供、さらには保険事故の再発防止という保険のあるべき姿に向けた活動を通じた新たな事業の創造に取組んで参ります。



3－(3). 中期経営計画ローリングプラン　連結経常収益・経常利益



（百万円）

	2012年3月期	2013年3月期	2014年3月期（予想）	2015年3月期（計画）	2016年3月期（計画）
経常収益（ローリング案）	13,845	16,186	18,136	20,218	22,570
経常収益（当初案）	－	15,970	18,088	20,368	－
経常利益（ローリング案）	337	837	1,010	1,714	2,468
経常利益（当初案）	－	755	1,393	2,009	－

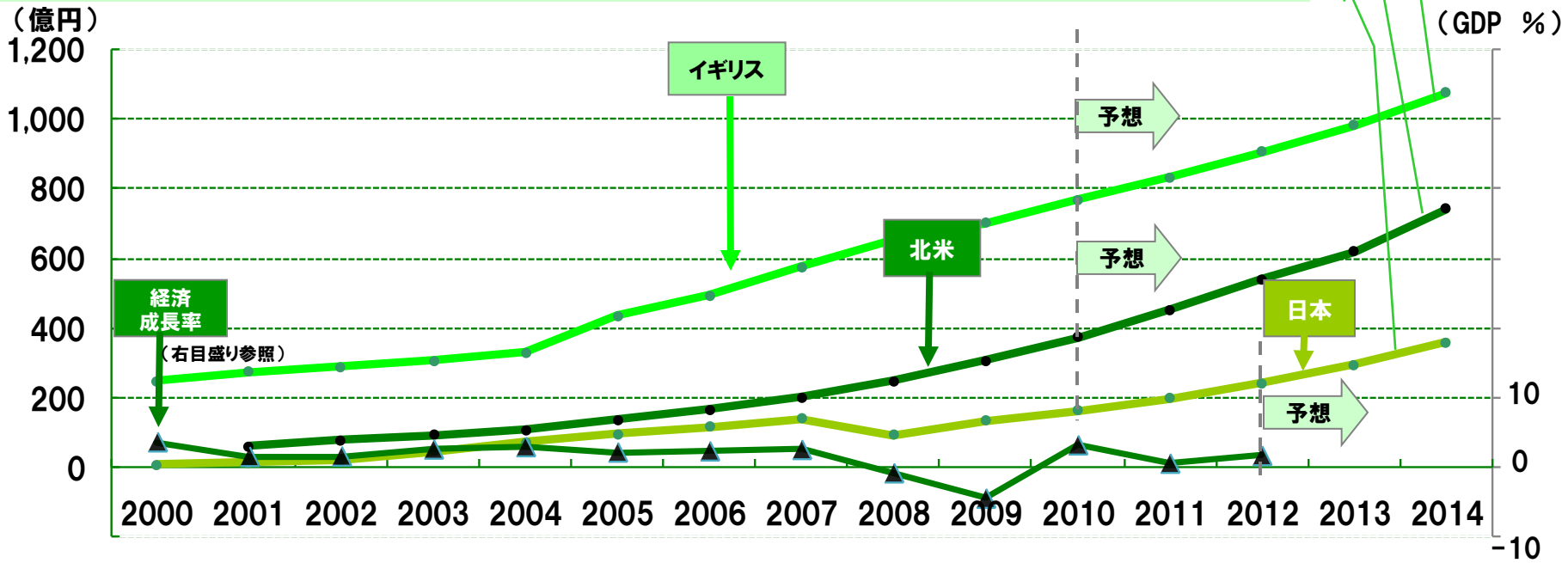
【APPENDIX】イギリス・北米・日本のペット保険市場規模の推移

□ 海外ペット保険市場は引き続き、GDPの伸び率(経済成長率)を上回る伸びが続いています。特に北米市場は今後も20%超の成長が見込まれており、ペット保険の認知度はさらに高まるものと想定しております。
日本市場においても、成長阻害要因は予見されず、市場は順調に拡大すると見込んでおります。

イギリス市場は2010年以降4年間、対前年比9%成長を予測
(Datamonitor社『UKPetinsurance2011』)

北米市場は2010年以降5年間、対前年比20%成長を予測
(Packaged Facts社『Pet Insurance in North America,4th Edition』)

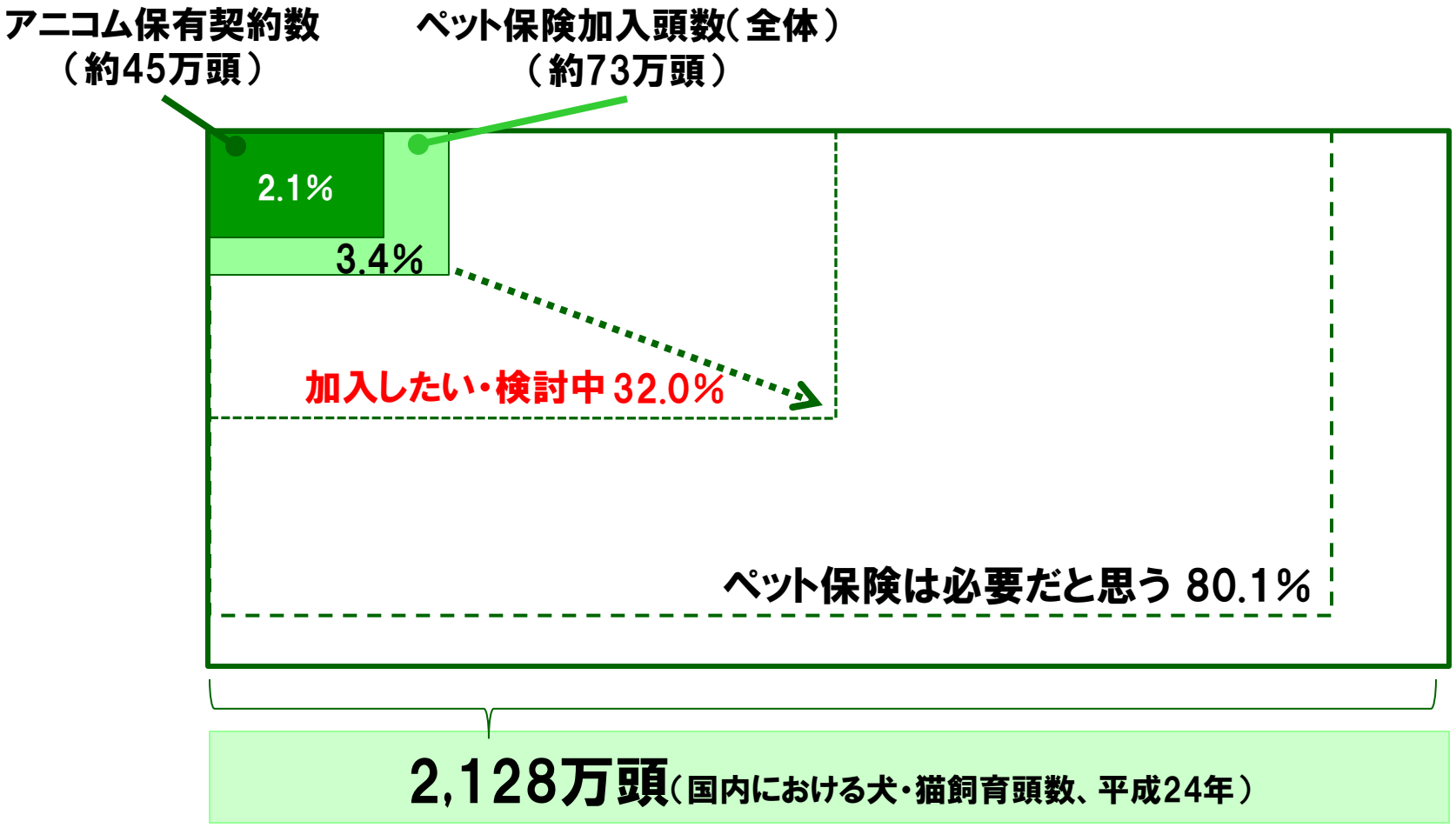
日本市場は2012年度以降2年間、対前年比10%超の成長を予測
(㈱富士経済『2012年ペット関連市場マーケティング総覧』)



出典: イギリス市場:Datamonitor社『UKPetinsurance2011』・1£=131円換算で算出
北米市場 :Packaged Facts社『Pet Insurance in North America,4th Edition』・1$=82円換算で算出
日本市場 :㈱富士経済『2012年ペット関連市場マーケティング総覧』1契約単価31千円で算出
経済成長率:3カ国の単純平均。(当年のGDP-前年のGDP)÷前年のGDP×100で算出

【APPENDIX】ペット保険市場拡大の可能性

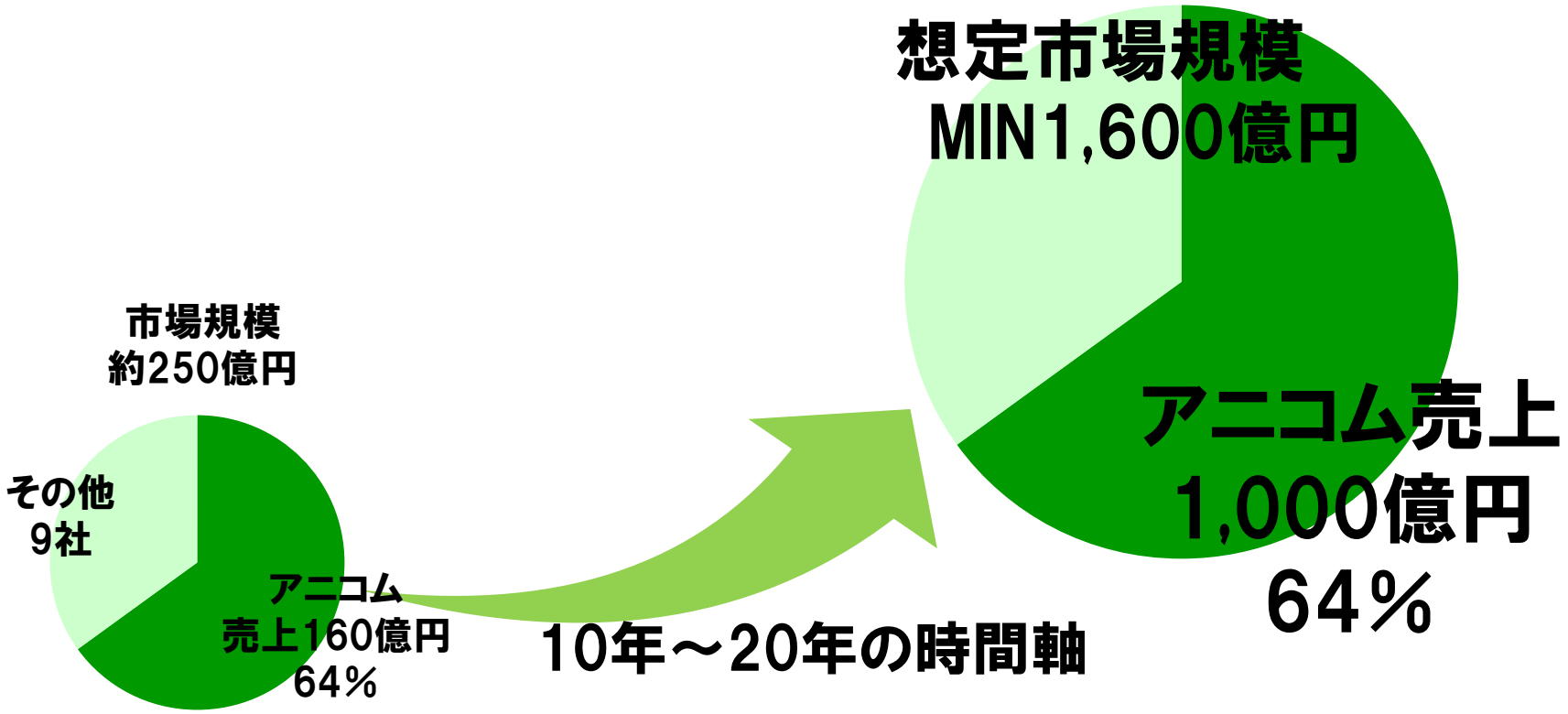
□ 国内の犬・猫飼育頭数2,128万頭のうち、当社グループのペット保険保有契約数は約45万頭（2.1％）にとどまっております。飼い主の「ペット保険は必要である」との認識は高いことから、ニーズは拡大傾向で推移するものと想定しております。



国内飼育頭数2,128万頭：平成24年一般社団法人ペットフード協会調べ
ペット保険契約数（市場全体）73万契約：㈱富士経済調べ
ペット保険の加入意向：ペット総研調べから当社試算

【APPENDIX】ペット保険市場の成長ポテンシャル

□ 現在の国内ペット保険市場は約250億円。うち当社グループは約64％のシェア（160億円）を持つ。ペット保険の先進国であるイギリスは既に800億円の市場規模。イギリスのペット数は国内の1/2であり、楽観的に見れば、国内市場は1,600億超に成長するポテンシャルがあります。今後、市場拡大とシェアの維持・向上を具現化し、売上1,000億円を目指します。



市場の創造	・イギリスにペット保険が誕生して約50年。日本国内においては、法律が整備され、ペット保険業が本格的にスタートしてからまだ5年。北米、欧州各国の市場の伸びを見ますと、世界的にペット保険市場は拡大する傾向であり、国内でも、これから益々の伸長が期待される。
シェアの維持・拡大	・当社グループが提供する「窓口精算システム」は世界的にみてもアニコムの独自性が高く、ペットショップ代理店（販売網）、対応動物病院（支払）とのシームレスなネットワークは、契約者への価値提供である一方、高い参入障壁でもあり、シェアの維持・拡大に有効であります。

本資料に関する注意事項

本資料は、現在当社が入手している情報に基づいて、当社が本資料の作成時点において行った予測等を基に記載しております。

これらの記述は将来の業績を保証するものではなく、一定のリスクや不確実性を内包しております。従いまして、将来の実績が本資料に記載された見通しや予測と大きく異なる可能性がある点をご承知おきください。

なお、本資料は情報提供のみを目的としたものであり、当社が発行する有価証券への投資の勧誘・募集を目的としたものではございません。

お問合せ先

アニコム ホールディングス株式会社　経営企画部

東京都新宿区下落合1-5-22　アリミノビル　2F

URL：http://www.anicom.co.jp/